



笹小だより No. 7

令和2年 10月 30日
横浜市立笹野台小学校

「学校行事で子どもの成長を…」

副校長 山中 卓

10月18日(日)、雨で一日延期されましたが、さわやかな秋晴れのなか、子どもたちの熱い思いのこもった「全力 団結 笹小キッズで盛り上げよう!」というスローガンのもと、第49回笹小運動会を開催することができました。

今年度は、世の中の状況を鑑みて、少しでもリスクを回避する方法で、いつもとは違う午前開催の形で行われました。保護者の皆様や地域の皆様には、感染拡大防止の観点から、様々な面でご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

9月に入り、TV 放送で行われた全校団結式の中で、赤白青組の応援団長が運動会にかけるそれぞれの熱い思いを語り、本格的に運動会ムードが高まってきました。今回は、団体競技を行わず、各学年での演技や徒競走が中心の種目となりました。

運動会当日は、1年生の「ささ小にんぼう なかよしのじゅつ」では、仲良しの忍者たちが忍び寄ってきて、「シャキーン」の声かけとともに、可愛らしさが全開となりました。初登場の運動会でしたが、演技のトップバッターの役割を十分に務めてくれました。

2年生の「ぼうけんしよう!!」は、入場から何かワクワクする雰囲気が始まりました。ちょっぴりお兄さん・お姉さんになり、つま先を立てた上品なステップで、ノリノリで踊る姿に見ているこちらでも楽しくなりました。

3年生の「天空へ跳べ!」では、縄を操る上半身と跳躍やステップが続く下半身のそれぞれ違った動きを見事に表現できました。曲に合わせ、得意気な表情でリズムをとる姿が印象的でした。

4年生の「笹小ソーラン2020」では、緊張感いっぱいの中、きっちり決まった「構え」の姿勢から、威勢のよいかげ声やダイナミックな動きで「荒波」「引き網」を表現し、最後のポーズまで一気に踊りきりました。

5年生の「飛翔」では、昨年度踊っていた6年生への憧れをもちながらも、「より素敵な演技を…」という強い思いが伝わってきました。見合いの時間で、6年生からもらったアドバイスを皆で共有し、指先をピンと伸ばし、腕や脚の角度まで意識して挑む姿が見られました。

そして、小学校生活最後の運動会であった6年生。本来ならば、開催されるはずであった「笹小の50周年をお祝いする式典」や「体育大会」への思い、今年度は上級生として、5年生と一緒に踊るはずであった「飛翔」への思いを詰め込み踊った「未来」。一人ひとりの思いが、最上級生らしい堂々とキビキビとした動き、曲調に合わせたしなやかな動きとなり、「さすがだな」と感じさせてくれました。

よく「学校行事は、子どもたちを成長させる」と言いますが、今日までの子どもたちの様子を見てみると、正にその通りだと感じました。行事で何より大切なことは、「どの学級・学年も、心をひとつに合わせて協力すること」「互いに心を支え合うこと」「友達からいろいろなことを学び、そして、精一杯応援すること」です。これらのことを通して、子どもたちは、ひと回りもふた回りも大きく成長するはずですよ。

さらに、高学年では、「自分の役割と責任を果たし、準備や運営に携わることも大切です。様々な役割を担うという責任が、子どもたちを大いに成長させてくれるのです。

先月の学校だよりにもありましたが、子どもたちが「しっかりと子ども時代」を過ごすためにも、今後の学校行事において、そんな大切なことに取り組んでいく姿がもっともっと見られることを期待しています。

これ以上、コロナ禍の影響で、学校行事が中止とならないように祈るばかりです。

笹野台小学校合い言葉 **元気いっぱい やさしさいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく笹小キッズ**